



# 優 秀 賞

調査・計画部門



調査・計画部門

## 作品概要

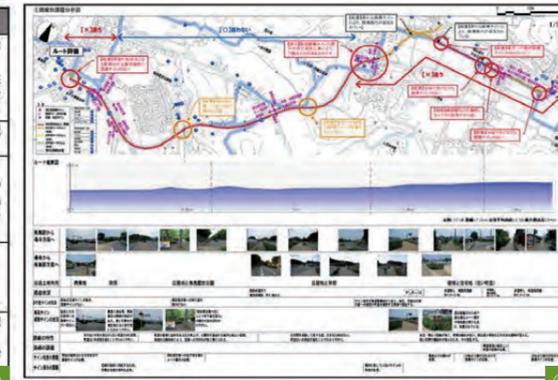
作品名—— 古都・明日香における地域振興を目指した  
広域サインの計画  
対象地—— 奈良県高市郡明日香村他  
発注者—— 国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所  
事業目的—— 歴史資源・観光施設を周遊する来訪者の満足度・  
利用者数の向上を目的とした観光サインなどの計画と  
実施設計  
事業体制—— 国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所、  
奈良県中和土木事務所、橿原市、高取町、明日香村  
協働者等—— なし  
事業期間—— 平成24年10月～平成27年3月  
事業規模—— 面積規模:24km<sup>2</sup> (村域)

## 作品評

奈良県明日香村は、高松塚古墳をはじめとする貴重な歴史的文化的資源が数多く集積し、これらが周辺の農村景観と一体を成していることから「明日香村における歴史的風土の保存及び生活環境の整備等に関する特別措置法」の対象地である。本作品は、この明日香村に点在する広域観光サイン計画を3ヶ年に及び調査と計画で取りまとめたものである。  
応募者は、利用者に対するGPSロガー調査やアンケート調査等の実施、行政関係者に対する勉強会の実施、手持ちマップの作成、等の総合的な対応を行い、結果として、統一デザインによるサインを、計画的に配置し、補足情報を手持ちマップやIT情報で補いつつ、利用者の利便性を向上させた。そして、全体としてサインの数を大きく減らし、景観の効果を最大限に発揮させた。こうした総合力が評価された。

表 明日香村の特徴の読み取り

着眼点	読み取り	対応方針	本業務での成果
ランドスケープの位置づけ	「明日香村における歴史的風土の保存及び生活環境の整備等に関する特別措置法」により歴史的風土・景観を保全	景観を阻害しないサインのデザイン、設置位置、設置数とする	○モックアップで確認したサインデザイン ○沿道状況と空間特性の調査・分析評価を踏まえたサインの配置計画
既存サインの状況	市町村間で配置や表示内容が不連続なサイン 多くの歴史資源に多種多様なサインが設置済、しかし維持管理が不十分で損壊被害も発生しているサインもある	表記内容や配置が連続していることが必要 デザインの整合性確保にむけた改善、維持管理できるサイン計画	○サインの表記および配置ルールを設定 ○配置計画の見直し ○撤去しないサインについては、権記の見直しとともにデザインも改善する計画
地形	対象周辺の豊かな谷戸地形が目的地へ向かう際の重要な手がかりとして機能	地形が分かりやすい地図表現	○マップデザインの実施
配布地図との整合性	駅や観光協会などで配布されている地図など、表記内容の違いが来訪者が混乱	サインの地図と配布している地図との整合性確保 ○関係市町村へマップデータを提供	○勉強会での課題の把握 ○関係市町村へマップデータを提供



①表-着眼点と対応方針 ②図-沿道状況と空間特性 ③GPSロガーとヒアリングシート ④来訪者への対面ヒアリング ⑤サインのモックアップを現地で確認 ⑥関係自治体との勉強会 ⑦地形などの表現を工夫したマップデザイン

# 古都・明日香における地域振興を目指した広域サインの計画

## パシフィックコンサルタンツ株式会社

西上律治・岡野郊子・小西弘朗・上津原 信博・井爪康夫・鶴丸順英・有田義隆・上出竜司・福田雅世・山本早織

国営飛鳥歴史公園（国営飛鳥・平城宮跡歴史公園の飛鳥区域）に、5番目の地区であるキトラ古墳周辺地区（以降キトラ地区と略す）が2016年9月に新たに開園した。本業務は、このキトラ地区の新規開園を機として、概成開園済みの4地区（祝戸地区・石舞台地区・甘樫丘地区・高松塚周辺地区）や公園周辺の歴史資源・観光施設を周遊する来訪者の公園利用満足度・公園利用者数の向上を目的として、観光サインや配布している

地図について調査・計画したものである。

計画にあたっては、「表-着眼点と対応方針」のように本計画や現地の特徴を読み取り、(1)計画実施方針、(2)サイン整備の基本方針、(3)広域観光サイン計画、を定めて検討・計画を進めた。

### (1)計画実施方針

①来訪者の利用実態調査の実施：来訪者の動向（来訪目的や目的地、来訪頻度、移動経路）やサインなどの情報提供に対する課題を把握するため、GPSロガーによる移動実態調査および対面ヒアリングを、四季を通じて実施

②周辺自治体との連携を進める勉強会の開催：連続したサイ

ンの計画や、誘導対象の整合性を図るため、関係自治体（奈良県中和土木事務所、橿原市、高取町、明日香村）と課題を共有する勉強会を開催

### (2)サイン整備の基本方針

◎来訪者の利用実態調査では、①初めての来訪者の多くが通る「基幹ルート」がある、②再来訪者は、来訪目的によって多様な訪問先・通行ルートを選択している、③再来訪者からは、既存サインが風景を阻害しているとの意見もある、ということ把握した。

◎そのため、現地に設置するサインは、初めての来訪者向けにターゲットを絞るとともに、サインだけでなく手持ちマップやITを活用した情報を充実させることで、多様な来訪者のニーズを満足させる

◎上記の考え方を、関係機関で共有できるサインの表記及び配置ルールとして、広域サイン計画を策定する

### (3)広域観光サイン計画

◎広域観光サイン計画にあたっては、以下の5つの目標を設定し、基幹ルートにおいては、沿道状況と空間特性を把握する調査を行った上で配置計画を立案した。



観光サインの計画は、その場所の特徴と、どのように利用して欲しいかを、具現化する計画にほかならない。今後も本計画が古都明日香の魅力を伝える一助となることを願っています。